

施策No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	久見木 恵一
2-3	施策名	青少年の健全育成	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		
	市民(青少年とその保護者、地域住民)	①桜川市人口	見込値	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197	
実績値						41,278	40,483	39,692	39,571	38,957	
②青少年人口			見込値	人	見込値	6,270	6,250	6,200	6,180	6,130	
						実績値	6,692	6,450	6,233		
心豊かにたくましく育っている。		③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数	見込値	店舗	見込値						
						実績値					
			①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合	%	目標値	目標値	47.0	48.0	50.0	51.0	53.0
							実績値	52.7	46.6	57.4	
			②コミュニティスクール参加人数	人	目標値	目標値	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
							実績値	1,833	1,831	2,323	
	③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数		店舗	目標値	目標値	127	129	131	133	135	
						実績値	118	113	112		
				目標値	目標値						
						実績値					
		目標値	目標値								
				実績値							
成果指標設定の考え方	心豊かにたくましく育っている成果指標については、①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合をアンケートにて調査。また、土曜日の活用の一環として実施している地域教育力推進事業(②コミュニティスクール)参加者人数を把握。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数の把握。										
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の①桜川市人口は、毎年10月1日の常住人口。②青少年人口は、毎年4月1日の住民基本台帳による20歳未満の市民より求める。○①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、市民アンケートより求める。②コミュニティスクール参加人数は、各コミュニティスクール実績報告より求める。③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数は、「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数実績報告より求める。										

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)	
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した
背景・要因	<p>心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は、平成30年度は46.6%でしたが、令和元年度は57.4%と10.8ポイントの増加となり近年の充実度が伺える。真壁地区小学校、羽黒小学校で実施しているコミュニティスクールについては、参加者数も500人弱の増加となった。「青少年の健全育成に協力する店」の登録店舗数は、平成30年度が岩瀬地区47店舗、大和地区14店舗、真壁地区52店舗、計113店舗、令和元年度は、岩瀬地区43店舗、大和地区15店舗、真壁地区54店舗、計112店舗で、昨年度と大きな変化はないが、近年の減少の理由としては、コンビニ等の普及により、タバコの専売店等、その他経営者の高齢化による理由より閉店していることが挙げられる。実績値としては低下しているが、現状の成果としてはほとんど変わっていないと考えられる。</p>
2) 成果目標の達成状況	
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った <input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった <input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った <input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った
背景・要因	<p>①心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合は目標値を7.4ポイント上回った。 ②コミュニティスクール参加者については523人目標値を上回った。 ③「青少年の健全育成に協力する店」登録店舗数については、19店舗、目標値を下回っている。 心豊かにたくましく育っていると思う市民の割合やコミュニティスクール参加者についても目標値を上回っているが、一時的な増加と考えられる。今後もより一層充実した体験機会の提供を図る。</p>

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
<p>○青少年の健全育成において、貢献度の高かった事業は下記のとおりである。 ・青少年育成桜川市民会議運営事業・・・令和元年度においては「いばらき教育の日・教育月間」地域推進大会と併せ青少年の主張大会を実施。未来に届けたい夢いっぱいコンサートの開催と、小・中・義学校の児童生徒による未来への夢や希望、また、桜川市の未来についての意見を主張する機会が図れ大変有意義なものとなった。 ・わくわくチャレンジ、コミュニティスクール...それぞれの事業をとおして様々な体験・交流・学習活動を充実することができた。また、参加者数も継続し実施できている。 ・子ども会育成連合会運営助成事業・・・総会時に貸出備品の実演60名、救急救命講習会49名、防災宿泊体験32名、謎解きハイキング(県西地区99名)、サイクリングフェスタ46名、陶芸体験教室70名など、さまざまな体験活動を実施することが出来、たくさんの参加があった。 ・家庭教育学級...茨城県より社会教育主事の派遣を受けて、現職の教職員の実績と経験を活かして、家庭教育の充実に向け保護者の方へ熱意ある講演を実施することができた。令和元年度は幼児保護者向けへも新たな対象者と手法により啓発を図りより充実する内容となった。 ・学校警察連絡協議会運営助成事業・・・桜川警察署や家庭相談員を講師に招いた研修会や学校区に分かれての意見交換の部会、夏祭り等の夜間巡視、各種団体の活動報告など地域活動について、現状の問題点や課題、状況を把握するための機会となった。</p>	<p>・成人式開催事業については、成人年齢の引き下げにより今後の対象者や開催内容・開催時期の検討など市の方針を決めていく必要がある。 ・青少年育成市民会議の運営においては、支部活動など事業の見直しを図り、今後各支部の統合も見据えてより一層充実させていく。 ・コミュニティスクール事業については、一部地域でのみ実施されている状況であるが、希望する市内の全小学校で実施できることが望ましい。また、事業名についても県・国の事業と重複するため見直し、検討が必要である。 ・家庭教育の充実のため、対象者拡大して、多方向への計画を実施していく。また、合同研修会の開催も視野に入れ、参加しやすい日時、内容などを工夫して計画を進める。 ・昨年度まで休会となっていた高校生会を再開して、高校生の自主的な活動による社会貢献の場や、魅力ある市づくり、郷土愛を育む活動などへの支援を図る。 ・新型コロナウイルス感染症流行の影響により、各種事業の開催方法や変更点などの検討が重要となる。 ・わくわくチャレンジ事業では、通常の事業開催が困難なため、動画配信などを利用した「おうちで『わくわくチャレンジ』」など開催の内容を大きく変更して計画していく。学習や体験活動の機会を減少させないよう工夫・改善を図り計画していく。</p>